

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1928 号

Efficacy and acceptability of one liter of polyethylene glycol with ascorbic acid vs. two liters of polyethylene glycol plus mosapride and sennoside for colonoscopy preparation

(モサプリドおよびセンノサイド併用による 1L アスコルビン酸含有ポリエチレングリコール電解質製剤と 2L ポリエチレングリコール電解質製剤を用いた腸管洗浄有効性及び患者受容性の比較検討)

亀井 将人 (かめい まさと)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、モサプリドおよびセンノサイド併用による 1L PEG-Asc と 2LPEG を用いた腸管洗浄の有効性及び患者受容性の比較検討を行ったものであり、両群間における洗浄効果は、盲腸から上行結腸では PEG-Asc 群の方が有意に高く、それ以外の部位の両群における洗浄効果に有意差を認めないことが示され、腺腫発見率も両群における有意差は認めないことを明らかにした。患者受容性アンケートでは、味を含む飲み易さでは PEG-Asc の方が良いという結果であり、量についても PEG-Asc の方が飲みやすいとする意見が有意に多く、さらに次回検査時の内服希望も PEG-Asc が有意に高いことも示された。両群において処置を有する有害事象は認めなかっただけでなく、潰瘍性大腸炎患者に対する使用でも、両群において明らかに前処置に起因した症状増悪を認めないことを明らかにした。本検討は前日の検査食を用いることなく 1L の PEG-Asc 内服による検査前処置の評価を行った初めての研究である点において優れた研究である。また、今まで使用されてきた大腸前処置薬の味や内服量によって大腸内視鏡検査を敬遠していた患者にとって、1L の PEG-Asc 内服による大腸内視鏡検査は受容性の改善につながる可能性がある点においても意義のある研究である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。